

# 教育長室だより

第 4 号

2018.7.12.

「数十年に一度」という西日本の豪雨でした。ただ、最近この言葉も毎年のように聞く気がします。不明を含め百数十人という死者が出るなどとは当初、想像もしませんでした。徳島は幸いさほどでもなかったのですが、私たちにはニュースで見る被災地の本当の大変さはなかなかわからないのだろーと思います。心よりお見舞い申し上げます。



「梅雨明けとみられる」というニュースが今日（7月10日）流れています。ともかくも夜になると田んぼの蛙の音が騒がしくなり、本格的な夏が近づいていることを知らせてくれます。

今年も暑い夏になるとのことですが、日本の文化には夏の涼しさを求めるものが多々あります。兼好法師は「家を建てるときは夏を基準にせよ」というようなことを書いています。夏を基準に日本の生活文化が発展したという人もいます。今年はひとつ、ご家族で涼しさを求める工夫などしてみてもどうでしょう。たとえば風鈴やすだれを吊ってみる、うちわを使って冷房を減らす、庭に打ち水をして夕涼みするなど…。できることも中にはあるのではないですか。もうやっているかもしれませんね。



今回のおはなしは巨人の肩に乗るです。

この言葉は万有引力発見のニュートンが使ったことで有名になりましたが、もともとは12世紀の、ベルナルドゥスというフランスの哲学者の言葉だそうです。さて、どんな意味か。

この巨人は「進撃の巨人」に出てくるような怖い存在ではありません。

現代の私たちは過去のたくさんの学問や研究の成果の上に立ってものごとを見たり考えたりできます。「太陽が地球を回っているのかと思っていたら実は地球が太陽を回っていた。」と私たちが知っているのも先人の業績のおかげで

す。新しい知見を見つけて、広めてきた過去のたくさんの人の叡智の集合体を巨人と見立てるわけです。その巨人の肩に乗っているから遠くが見える…と。現代社会に生きる私たちは最初から巨人の肩に乗っているのです。



「巨人の肩に乗る」と似たようなことを言っている人がいます。テレビにもよく出ている脳科学者の茂木健一郎氏です。茂木氏が「乗る」のは「巨人の肩」ではなく「本」です。次のように言っています。

本は読んだ分だけ、足元に積み重なっていきます。100冊読んだら100冊、1000冊読んだら1000冊分の高さから見える世界があります。読書量と学力は、ほぼ比例します。本を読むと疑問を持ったり、調べてみたいと思ったりします。それが学力につながるのです。



「なんだまた読書の話か」、と思った方もおられるかもしれません。今の時代、本を読まなくても、ネットやスマホなど情報や知識を得るすべはたくさんあるからです。

しかし、読書は単に情報や知識を獲得するだけのものではありません。物事を論理的に考える力や、人の心情を理解する力、また、ものを多様な角度から見る習慣などさまざまな刺激を脳に与えてくれます。



読書の意義を次のように言う人もいます。

「人が自分だけの経験から学べることは恐ろしく少なくちっぽけだ。“経験がないから興味がなかった”ことについて、読書は興味を引き起こしてくれる。」読書は他人の価値観を知るための有力な方法だということです。

AIが発展するこれからの人間社会で大切な能力の一つに、「人間関係を円滑にする能力」ということが言われます。コツは人の意見を尊重すること、他人の価値観をひとまず受け入れることだと言われています。



何でもかんでも受け入れるというわけではありません。

批評精神というのが、様々な見方や意見の渦巻く今の世の中では特に大事でしょう。「ニュースで言っていたから」「雑誌に書いてあったから」ではなく、

自分の中に作り上げた根拠によって正しいとかまちがっているとか判断する力。そういう批評精神の基礎も読書によって培うことができるのだと思います。

○

○

夏休みが近づきました。子どもたちにとっても40日は長いです。どのように過ごさせるかは大きな問題です。

町教委では今年も「夏休み各種教室」を開催します。「夏休み中にできるだけ価値ある時間を過ごせる居場所を」という発想です。

以下のようなラインアップです。

琵琶（びわ）体験教室	紙芝居教室
箏（こと）体験教室	こども俳句教室
おもしろ工作教室	人形劇教室
ネイチャーゲーム	お遍路お接待体験
古代体験教室	夏祭りボランティア
茶道教室	ボランティアフェスティバル（2）
紙飛行機教室	平和学習

親子で参加するもの、子どもさんだけ参加するものと分かれています。詳しくは子どもさんの案内文書をご覧ください

ネットやスマホで仮想世界に遊ぶのも全く無価値ではありませんが、いろいろな事件、事故に巻き込まれる例があまりにも多いようです。「やめなさい」とだけ言っても子どもたちはやめないでしょう。それよりももっと面白い価値ある世界がたくさんあることを教えてやる必要があります。そんな機会の一つになればと考えます。しっかり参加を勧めてみてください。

今回はここまでとします。